

都市計画道路駅前吉島線駅前大橋架替事業

受賞機関 広島市道路交通局道路部街路課

はじめに

駅前大橋はJR広島駅の南側に位置し、一級河川太田川水系猿猴川に架かる橋梁で、戦災復興事業の一つとして当時、広島市で最も幅員の広い(W = 30m)橋梁として昭和31年8月に開通した。

その後、近年の交通量の増大に伴う交通渋滞や橋本体の老朽化及び広島駅周辺地区の市街地再開発事業、広島駅南口地下広場整備等の都市機能の更新が図られることから架替事業に着手したものである。

事業の概要

- 路線名：都市計画道路 駅前吉島線
 架設位置：広島市南区松原町（左岸）～
 南区京橋町・的場町一丁目（右岸）
 河川名：一級河川太田川水系猿猴川
 橋長：68.0m
 幅員：50～56m
 （車道37.75m、主歩道6.125m×2、袖歩道3m×2）
 道路規格：第4種第1級
 橋梁形式：2径間連続鋼床版鋸桁橋
 事業期間：昭和63年度～平成12年度
 （仮歩道橋撤去関連工事を除く）

駅前大橋の特徴

本路線は、交通量が42,000台/日（うちバス交通量約6,000台/日）と非常に多い幹線道路であるため、現況の車線（6車線）及び歩道を確保する必要があることから、仮車道橋及び仮歩道橋をそれぞれ旧橋の上下流に設け、大規模な交通の切り回しを行いながら施工した。

これにより橋梁の幅員を30mから50mに拡幅し、車線数も6車線から県内で一番多い11車線に増やすとともに、車道の両側に幅員約6mの歩道と、さらにその外側に半円形の幅員3mの袖歩道を設置することで、ゆとりのある交通空間を創出している。

また本橋は、広島市の陸の玄関口であるJR広島駅前に位置することから、ゲート性を表現するため、



旧駅前大橋（架替前）



現駅前大橋（架替後）写真提供/ナカサ&パートナーズ

制震装置を内蔵した高さ23.75mの紡錘形のシンボリックな照明塔を橋詰の四隅に配置するとともに、河岸緑地との連続性、回遊性も確保できる袖歩道により、親水空間の一部として開放的な雰囲気づくりにも配慮した。

その他に、袖歩道には透過性をもたせ陰影の美しさを追及したアルミ高欄を、対照的に内側にはシンプルな形状で重厚感を醸し出す石張り高欄を採用、また、歩道舗装として主歩道には白御影石、袖歩道には黒御影石を敷詰め、無彩色の持つ重厚感により存在感を強調するなど、デザイン及び色彩面にも工夫を凝らしている。

受賞賛助会員 石川島播磨重工業(株)中国支社、(株)大林組広島支店、前田道路(株)中国支店、三菱重工業(株)中国支社